



I. 計画山行、行事報告	1～3
II. その他行事等報告	3～8
III. 今後の行事予定	8～9
IV. その他お知らせ	9～11

本年度最後の支部報です。以下の2件は必読願います。

- ① 8頁の「平成28年度支部定期総会の開催について」
- ② 9頁の「富士写ヶ岳方位盤建設」に伴う募金のお願い

方位盤建設については2頁の「平成28年度第4回支部役員会報告」内の「2-2 山の日制定記念事業」も参照ください。

I. 計画山行・行事報告

1. カンジキ山行

■ 3月12日（土）

- ・ 場所 有形山 (1,010.7m)
- ・ 参加者 田井 (CL) 八十嶋 前川

本来の計画は、兜山（小松市大杉町）であったが、下見に行かれた田井さんから「今年は雪が少なく藪化している」との情報が入り、代替山として田井さん推薦の「有形山」にする。同山は大長山から白峰町方面へ派生している尾根の突端に位置し、天狗壁の上部付近にある。

入口は、白峰の町から市ノ瀬方面への道路へ入ってすぐに、冬季閉鎖中の門扉手前を右折すると林道があり、そこからスタート（7:38）。

最初は林道沿いに進み途中から杉林に分け入る。田井さんは山スキーで、八十嶋さんは冬用登山靴、私は山用長靴と三様の足元で頂上を目指す。

シール装着の短めの山スキーはとても機能的にできており、金具やシールを間近に見つめながら「りくつな～」と思いながら後に続く。

出発してからちょうど1時間で最初の送電線鉄塔に到着し一本入れる。（8:38～9:00）

ここからは、頂上部手前までが望め、これからのルートが一目瞭然である。送電線沿いに登っていけばよく、ルートは広範囲に刈払われて、まるでスキーのゲレンデのようだ。聴けばここは山ス

キーのコースとしても人気があるらしく、田井さんもこれまで何回か経験済みとのこと。林道がコース上で幾度か横切るが、それを超えて上を目指す。



10時丁度に山頂着。眼の前には左から純白の四塚山、大汝峰、御前峰そして少しおいて別山がガーンと広がり圧巻である。

それらの登頂に意欲を示す元気な八十嶋さんに頼もしさを覚える。地図で調べてみると、ここからはナナコバ山、白山釈迦岳、御前峰がほぼ一直

線上にある。三人揃ってスコップで雪をほじくり、堀こたつ式に足を降ろす。

田井さんふるまいのビールと温めた肉の缶詰で楽しいミニ宴会が始まる。

行動食も食べ11:10下山開始。帰りは登る際に最初に休んだ鉄塔まで一気に飛ばし、そこで初休憩(11:45~12:00)登山口には12時31分に到着。最寄りの温泉に入って、帰路には田井さんから新

年度の支部事業計画として沢登りを3件提案いただく。更に代表を務める「小松ブルーベル山の会」の記念誌の10周年記念特別号「なため100号」も頂戴する。

今回は快晴と昔のシネラマ映画のような白山と、山をこよなく愛する二人の同行者に恵まれ、実に爽快な山行であった。

(文・写真 前川 陽)

2.H28年度 第4回支部役員会報告

■ 3月13日(日) 15時~18時

- ・場所 金沢市総合体育館 第三会議室
- ・参加者(10名) 中川 前川 岡本 八十嶋 田中 樽矢 村上 前田 織田 大庭 (名簿順)
- ・議題及び内容

2-1 28年度支部定期総会の開催場所及び会費について

基本案として、参加率向上のため会費を下げたい。については場所を吉野谷セミナーハウス(白山市中宮ヲ16)にしたい。一泊二食プラス暖房費込で2,600円なので、宴会費(自前)をいくりにするかを含めて審議し、宴会費2,400円の計5,000円で場所と会費を決定。なお、温泉は近くの「新中宮温泉センター」@370円を適宜利用いただくこととする。

2-2 「山の日」制定記念事業について

(事業概要)

本年からの「山の日」制定に伴い、その記念事業を何にするかについては、昨年8/30に「山の日」記念プレ事業として、支部が「深田久弥山の文化館」で実施した「山岳講演会」以降、富山の「播隆祭」や福井の「泰澄祭」にも匹敵するイベントとして、郷土が誇る作家で登山家の深田久弥にかかわるもので何かないかを模索してきたところである。

昨年末に大庭さんから、久弥が登山を始めるきっかけとなった富士写ヶ岳の方位盤が経年損傷の状態で放置されており、これを何とか再建して「百名山」原点の山にふさわしい頂上に整備し、久弥の功績を顕彰したいとの熱い提言があり、実施検討に入った。

今回の趣旨は方位盤建設で終わりではなく、今後とも県内の山岳関連団体が結束して「山の日」制定の理念に即した共通のイベントを開催し、山岳界の活性化に努めていくことにある。

方位盤建設については先ず実行委員会を立ち上げ、地元加賀市長に会長をお願いした。メンバーは県山協、県労山、JAC、山の文化館とこれまで富士写ヶ岳との関わりが深かった山中山岳会、加賀山岳会、加賀ハイキングクラブの7組織で構成した。

事業は費用の募金集めと荷揚げボランティアの募集に大別されるが、当面は募金活動に集中し、募金額は個人2,000円から、団体は10,000円からとし、郵便局の指定口座への振込依頼(手数料振込者負担)を今後7月中旬まで継続実施し、方位盤完成は8月上旬を目指す。

冒頭、支部長から前項内容を踏まえた趣旨説明があり、その後大庭さんから詳細説明が成されたが、概要は巻末添付資料を参照願います。

2-3.「新日本山岳誌」改訂版関連

本部から、改訂作業に伴う原稿料を別途支部口座へ振り込む（金額未確定）予定との連絡があり、その扱いについて審議。

石川支部の執筆担当山岳は、番号管理上では83山を担当。（一つの番号で複数山ある場合も有り、山数としてはもっと多い）

初稿時の原稿料は総額支部経費に充当したが、今回は金額もあまり望めないため、担当者に支払ったかどうかとの意見が出る一方、少額なら分けても仕方がないとの意見も出たが結論的には、入金額と執筆量の多い山岳担当者（3名）の意見を踏まえ別途決定となる。

2-4.支部役員改選（案）

来年度は役員改選時期にあたり「役員入れ替えに伴う支部活性化」を中心に審議し、以下のとおり案が作成された。（以下敬称略）

- ・ 役員の交代 事務局長 前川陽 ⇒ 樽矢導章
- ・ 役員の退任 自然保護委員 安田二三男
- ・ 担当者の担務変更 八十嶋仁（山行担当副委員長⇒山行担当委員長）
- ・ 担当（者）の新設 会報担当⇒池本順平

なお、空席の副支部長、県山協理事については今回決まらず、支部長一任とする。

2-5.平成28年度支部事業計画

魅力ある企画に伴う参加率の向上を目的に策定。

主な特徴としては、これまでの事業計画には見られなかった沢登りや、若手育成を中心としたクライミング講習会、過去と重複しない山行等を積極的に取り入れた。

内訳としては、公益事業8件 共益事業17件 支部報発行4回/年 役員会（必要の都度）

本部・他支部行事への参加6回/年

最後に支部長より昨年（12/5）の支部長会議で本部再生委員会からの「会員制度に関する検討案」に関し、以下のとおり説明があった。

9月の支部長・事務局合同会議では、「支部会員（会友）制度を日本山岳会の制度に出来ないか」を検討中とのことだったが、12月の支部長会議では進展し、「財務状況を勘案して準会員制度を設ける方向」になっていた。（会報「山」2月号の会務報告では理事会で審議承認。）

詳細は添付資料を参照して頂きたい。4月16日（土）の総会でも説明するので、会友のみなさんにも是非聴いていただきたい。

昨年4月の支部総会では会友から会員へのステップアップ制度を提案し、賛否両論あって紛糾したが、一定の実施案をみた。ところがこの実施案は今回の本部の準会員制度と似通っている点が多いため、支部の実施案は一旦保留し、本部の動向待ちとしたいのでご承知願いたい。

Ⅱ. その他の行事報告

1.平成27年度指導員研修・石川県山岳協会新年会

■ 1月16日(土)～17日(日)

・場所 医王山スポーツセンター キゴ山

・参加者 樽矢 前川 16日新年会：16名 17日研修会：31名

16日(土)の午後からの指導員研修は、樽矢会員は仕事で前川は所用で参加できなかったが、19時からの県山協の新年会には前川が参加し、各会員はじめ村田名誉会長ご夫妻や野村北國新聞営業事業局スポーツ班係長に石川支部が中心となって計画している富士写ヶ岳方位盤建設の情報提供を行い、大変有意義だった。



翌17日(日)の午前中はキゴ山の雪上歩行技術研修でミッチリしごかれ、特に指導員資格研修中の樽矢、前川には県警山岳救助隊を含む受講生の前で臨時講師の指名を受ける等の指導員研修成果が求められ、寒さも忘れての冷や汗ものであった。午後からはビーコン探索方法や雪洞等の構築で汗を流しへとへとの日が終わったが収穫は大きく、帰りの車中では内輪の研修のみならず部外研修にも、もっと若い人の参加が望まれると思った次第である。

(文・写真 前川陽)

2. 第54回海外登山技術研究会

(公) 日本山岳協会海外登山技術研究会の案内が、当支部事務局長兼県山協国際海外委員長を通じて支部にあり、参加を申し込む。

■ 2月13日(土)～14日(日)

・場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

・参加者 前田 健進 全国各地から55名

・内容

○ 2月13日(土)

13:30 開会挨拶 八木原会長

登山報告・講演会の趣旨及び日程説明 澤田国際委員長

「海外登山報告 2015」

13:50～14:40 「西ネパール・アピ南西壁をめざして」・・・講師 三戸呂拓也

14:50～15:40 ヒマラヤキャンプ2015隊

「ランダック峰・ランシャール峰登山報告」・・・講師 塩谷晃司、 蒲澤翔

- 16:00～16:50 カンテガ・エクスペディション 2015 隊「カンテガ北壁遠征報告」・・・講師 馬目弘仁
 17:00～17:40 「2015年の海外登山を振り返る」・・・講師 池田常道
 17:50～18:20 海外登山地情報 ・・・講師 岩崎国際常任委員、沖 允人
 19:00～ 懇親会

○ 2月14日(日)

特集1 特別講演

08:40～09:40 「インド・ヒマラヤの魅力」 講師 沖 允人

特集2 下降について

09:50～10:20 「アルパインクライミングにおける下山について」 講師 山野井 泰史

10:30～11:00 「アルパインクライミングの下降技能について」 講師 馬目弘仁

11:10～11:40 座談会 「下り方をめぐる苦悩」 山野井 泰史、馬目弘仁 司会 澤田国際委員長

11:50 閉会 澤田国際委員長

以上の日程で開催されたが、今回は沖講師による「インド・ヒマラヤの魅力」と特集2の下降について簡単に報告します。

● 「インド・ヒマラヤの魅力」・・・講師 沖 允人

(1) 多様性と古い歴史について

インドは、中国・パキスタン・ネパール・ブータンと国境に接している。その上、インド内では地域ごとに特有の民族・言語・習慣・宗教・文化・自然があり、モンゴル系、チベット系、インド・アリア系などの民族は独自の文化を保って暮らしている。登山に向かうと、好むと好まざるとにかかわらず、このような多様なインドに触れることになり、日本とは異なった文化に接して、楽しみ、学ぶことができる

(2) インド・ヒマラヤ山麓のインフラ

国境警備のためインド・ヒマラヤ山麓まで軍用道路が建設され、大半は民用にも使用されている。標高5000mを超える地点まで歩かずに到達できる所も多い。

(3) 未踏の宝庫

高峰や未踏峰が林立する国境地帯や一般人の立ち入り禁止区域の登山許可は取得が困難である。登山情報も少ない。そのためインド・ヒマラヤには未踏の6000m峰が沢山残っている。

(4) 環境破壊

インド・ヒマラヤをめぐる環境破壊も深刻である。法の不整備による商業乱伐、人加に伴う山間部までにもおよぶ農地拡大が進み「ヒマラヤの砂漠化」を憂慮する専門家もいる。

(5) 日本人のインド・ヒマラヤ

日本の登山界は大きくて力強い。これまでに、多くの高山を登り、調査し、膨大な知識を手中してきた。特にインド・ヒマラヤの功績について顕著である。

(6) 東部カラコルムをめぐる印パの動向

1947年以來の印パ紛争、1962年の中国とインドの国境紛争も加わり、中印パの複雑にからんだ紛争が続いた。印パ国境に関しては1973年8月、印パ停戦協定を締結した。1974年秋、パキスタンは自国の領有権を主張するような政策として外国隊の氷河周辺入山を再開した。

最後にインド・ヒマラヤには毎年インド隊が60隊ほど、外国隊が40隊ほど登山する。日本隊はかつて年間に10隊以上登山したこともあったが、ここ数年は1～2隊にとどまっている。登山ビザの取得が簡単でなく、インナーライン・パーミットも必要で、その手続きが煩雑であること、国境地帯の高

峰の登山はインドとの合同隊に限定されていることなどが主な理由である。

● 「アルパインクライミングの下降技能について」・・・講師 馬目弘仁

(1) 勝者に運があり敗者には必然がある

登山における「成功」とは無事、麓に降りてきて初めて口に出来る言葉だ。

(2) 下降技術と技能

登山は「技」の総合だと考えるようになった。

「技能の技術化」「技術の技能化」である。前者は、他人に正確に伝えることが難しい技能を、言葉で説明しやすい技術として捉えること。後者は技術として捉えたことを「練習や」「訓練」により自分のものにするをいう。

(3) リスク回避の思考について

頂上に魅入られ、下降のことをすっかり忘れて登攀に没頭してしまったこともある。

この一線を越えたら下降は不可能だと判断して引き返したこともある。

私たちは「生きるため」に山に登っている。頂上は、その気になれば何時でも諦めることができる。下降は、絶対に完遂しなければならない。そして運に任せる事も簡単に許してはいけないと思う。基本的に不要なリスクはあらかじめ避けるという思考が正しいと考える。

次に下降中に最も避けたいと思う事態を4点に絞って挙げてみたい。

- ① 現在地を見失う（悪天候による視界不良+夜間）
- ② 下降ルート of 行先が読めない。（先の地形、要する時間など）
- ③ 下降方向の見当がつかない。（懸垂下降もクライムダウンも極めて困難）
- ④ 体が動かない（重篤な疾病や負傷、極度の疲労困憊）

(4) 回避と対処について

- 恐れと慎重さを備える。

高峰登山での下降ルート選択では、初めに同ルート下降を検討することになっている。（いざ敗退即時退却となっても準備が出来ている。

登攀中は何時でも「ここから下れるか？」と自問し計算している。登攀ルートとは別の下降ルートを選ぶとしたら、それは明らかにそちらの方が簡単だと見積もれる場合。例えば落石等の危険性が大きい岩壁ルートの裏側に、氷雪壁を歩いて降りられるルートがあれば当然そちらを使うことになるだろう。偵察もしていない全く未知のルートを下降するなど論外だと思っている。

- 質の良い経験とバリエーション

人生、「失敗」から学ぶことが多い。あとに笑って済まされる程度の失敗は教訓として糧になる。しかし大失敗はいただけない。だからこそコツコツと積み上げた経験とバリエーションがとても大切と思っている。

- メンタル的な強さ

ハードな下降につきものの不測の事態に、最も大事なものは「楽天性」であると思う。「メンタル的にタフ」というのは、強い意志の力というよりはもっと柔軟なもの、心の安定性や弾力性という表現が適当かもしれない。仮に決定的にミスが判明した場合、自分ならどうリアクションをするだろうか。人間、突発的非常事態では怒るか笑うかの反応するものだが、私は笑う側のクライマーでありたいと願う

修羅場でのパートナーのくだらないジョークを笑えるか否か、（失笑であっても）笑ってあ

げるのが友情というものだろう。諦観したり、絶望してもいいことは何一つない下降中は、ふてぶてしいくらい楽天的にものごとを考えた方がいい。

○ 知識と技能の引き出し

2008年、テンカンポチェ峰頂上のコルからの下降について(体験)

足元はサラサラのシュガースノー、立っている場所はフカヒレのような雪稜の上。登ってきたところの傾斜は80度近く、クライムダウンは全く考えられない。ここから降りるには何とかして懸垂下降するしか方法はなさそうだった。この雪質ではたとえザックに雪を詰め込んだとしてもアンカーにならない。絶体絶命とは感じていなかった。そこで「これしか方法はない」というイメージが浮かんでいたのだ。

気をつけるべきはパートナーの岡田にいかにかそれを自信たっぷりに伝えるか。ということ。今立っているコルから下方の雪量全体をスノーボードに見立ててそっくり支点にしてしまおうと考えた。北壁側に私、南壁側に岡田と2手に別れ、ロープを綱引きするように同時に体重をあずけて懸垂下降を始める。ロープが雪面に吸い込んで行くのが手の感触で分かり、一瞬息がとまった。何とか無事下山できた。

さいごに

下降中のミスで私の場合、「致命的ミス」として、懸垂下降中のスツポ抜け、滑落、雪崩などの苦い思い出がある。

人として山とどう向き合うか。とにかく山からはいつでも笑顔で家に戻ってきたいなど、それが一番大切なことである。

以上インド・ヒマラヤについて登山報告と講演会受講を簡単に記しましたが、機会があれば聴講していただければと思います。



講師 沖 允人 氏 (文・写真 前田 健進)

3.五支部合同スキー大会（富山支部）

■ 2月27日（土）～28日（日）

- ・場所 大寺山（919M）
- ・宿泊場所 庄川峡 長崎温泉 北原荘
- ・参加者 前田 健進

・内容

今回は富山支部が担当で、15時から受付。

17:00 から山崎富美雄講師による講話で始まった。

山スキー人生の生い立ちから人形山中心に近辺の山々について話され、最後にシーハイルの歌を合唱した。その後、山スキーのコースについて富山支部の若尾昇会員から説明を受けた。

18 時からは懇親会で、山田支部長の挨拶後、近藤会員の乾杯でにぎやかに始まった。

明日の天候を気かけながらも各支部持ち寄りの銘酒や山スキー談義等で盛り上がった。

終盤では次期担当の岐阜支部、横田会員から挨拶があり、新たな期待が寄せられた。

二次会は場所をカラオケルームに移し、歌や談笑で更に盛り上がった。

<山行>

翌 28 日は 8 時に旅館を出発し、対岸の利賀栃原の旧サンタの森スキー場駐車場登山口には 8 時 30 分到着し、そこから大寺山 (919m) を目指した。

天候は快晴、周辺の山には雪は少なめだが、山行コースには十分あった。

スキー場跡を超えて中腹から上は急峻でなかなか進まず、悪戦苦闘しながら 11 時に目的の大寺山に到着した。

快晴無風の頂上で展望を満喫しながらゆっくり昼食をとり、12 時に下山を開始し 13 時全員無事降り立ち、閉会式をして現地解散となった。今回は天候にも恵まれ心配した雪量もあり、宿泊地の料理・温泉その他も好評で実に楽しかった。

岐阜支部 スキー 5 名 ワカン 5 名

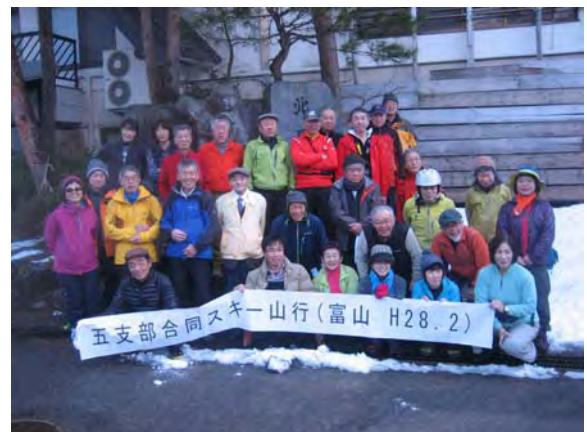
京都支部 スキー 3 名 ワカン 3 名

福井支部 スキー 6 名 ワカン 2 名

富山支部 スキー 7 名 ワカン 6 名

石川支部 スキー 1 名

計 30 名



(文・写真 前田 健進)

Ⅲ.今後の行事予定

1.平成28年度支部定期総会の開催について

本年度から参加費を大幅に値下げしました。たくさんのご参加をお待ちします。

会友は議決権はありませんが、傍聴参加は自由ですので、ふるってご参加ください。

懇親会では大いに呑んで語っていただき、支部活性化にご協力ください。

■ 4月16日（土）16時開始 ～17日（日）9時解散

- ・ 場所 吉野谷セミナーハウス（旧中宮温泉スキー場駐車場脇）
白山市中宮ヲ16番地 Tel076-256-7246
- ・ 時間 16時～ 支部定期総会（但し、会計担当と監査員は15時までに集合ください）
18時半～ 懇親会（宿泊）
- ・ 会費 宿泊者 5,000円（一泊二日の食費&暖房2,600円+懇親会費2,400円）
日帰者（懇親会参加者） 3,850円
日帰者（会議参加のみ） 250円

[金額内訳]

宿泊800円 日帰200円 暖房100円（日帰50円） 夕食1,200円 朝食500円 宴会2,400円

◆参加連絡及び会員で欠席者の委任状の提出について

1 一会員用（全員事務局まで必ず返信願います。）

- ・ 参加の場合・・・内訳（宿泊 日帰会議懇親会参加 会議参加のみ）を記載ください。
- ・ 不参加の場合・・・委任状を提出ください。内容は、年月日、氏名と「私は支部定期総会に関する一切の権限を支部長に委任します」と記載ください。
- ・ 返信方法 ①メール環境のある会員・・・事務局からの総会案内メールに返信ください。（返信いただいた場合には必ず事務局から返信確認メールを送信します）
②メール環境のない会員・・・本支部報に同封されている返信はがきで返信ください。

2 一會友用

- ・ 参加の場合・・・会員用の「参加の場合」を参照ください。
- ・ 返信方法・・・会員用の「返信方法」を参照ください。メール環境のない会友は事務局まで電話連絡（090-2120-3747）願います。なお、会友の委任状は不要です。

2. 第一四半期の行事予定

総会承認後、今後以下の行事を予定しています。但し総会前行事は見切り発車します。（ ）内は担当者です。

- ・ 4月 9日（土）（公）富士写ヶ岳方位盤再建支援（前川）
16（土）～17 支部定期総会・懇親会（前川）
30日（土）（公）火燈古道・不惑新道登山道整備（大庭）
- ・ 5月 21日（土）～22 毛勝山登山（八十嶋）
28（土）（公）浅犀みくまりの道周回道整備（織田）
- ・ 6月 4日（土）（公）杉峠道整備（織田）
5（日）石川県安全登山の集い・宝達山（石川山協）（埴崎）
11日（土）沢登り・大日谷（田井）
- ・ 4月～6月の第三日曜日を目途に若手等育成クライミング講習会（講師：田中 担当：八十嶋）

IV. その他お知らせ

1. 富士写ヶ岳方位盤建設に伴う募金のお願い

・本事業は「山の日」制定記念事業として県内の山岳関連団体(県山協、県労山、JAC、山の文化館、富士写ヶ岳地元山岳会)が結束して実施します。

・山岳関連団体のすべての方に事業案内のチラシと募金振込み用の「払込取扱票」を配付しますので郵便局でお振込みください。なお、下記の口座名と記号番号で事前配付の払込取扱票がなくても郵便局での振込みは可能です。

・事前配付の「払込取扱票」の通信欄には「日本山岳会石川支部」の表示がありますが郵便局で新たに交付を受けた場合には、その表示がないので必ず通信欄に「日本山岳会」もしくは「JAC」と記入ください。(会員、会友の紹介者も同様です。)

概要は以下のとおりです。

*目標額 300万円

*募金期間 平成28年3月20日から7月15日

*募金方法 個人は2千円から、団体は1万円からお願いします。

・取扱窓口 郵便局

・口座名 山の日記念事業実行委員会

・記号番号 00780-3-41891

・振込用紙には必ず住所、氏名をご記入ください。(振込手数料はご負担をお願いします。)

・ご寄付の記録は方位盤台座に末永く内蔵保管させていただきます。

◆本件の計画内容と募集チラシは巻末添付資料を参照ください。

2. 出版本に見る支部及び支部員の活動状況

最近出版された山岳関連書に記載された支部の活動状況や支部員名です。

但し、事務局把握分のみです。

*「私の中の深田久弥」滝本幸夫 著(柏艚舎) 定価1,400円(税別)

滝本さんは前北海道支部長で深田久弥と親交が厚かった方です。文中に石川支部の登山道整備活動や、富士写ヶ岳、白山を登った際に同行した大庭さんご夫妻、大幡さん、藤江さんとの思い出が綴られています。

*Indian Himalaya (インド・ヒマラヤ) 日本山岳会東海支部編 ナカニシヤ出版

定価(6,000円(税別))

日本山岳会が創立110周年記念事業の一環として刊行した記念誌です。本の構成は13の山域に分けられており、石川支部は、6.パンゴン山脈内の「マーン峰」に西嶋さん、織田さん、大庭(保)さん、前田さん 「バルマ・カンリ峰」に西嶋さんの記載があり、それぞれ初登頂や無名峰として、これらを命名したとあります。なお、執筆は前石川支部会友の沖允人さんで、沖さんは、これら両方の登山にも参加されています。なお、文献紹介として、中川博人(編)「マリ山群・マーン峰6,342(初登頂)」日本山岳会石川支部2008年があります。

*その他、山岳雑誌「新ハイキング」には、石森さんが定期的に執筆され、4月号は「日野山」の紀行文が掲載されています。石森さんの文章は歴史的背景に富みいつも読みごたえがあることで定評済です。

3. 山岳指導員（アルパインクライミング）専門科目を修了

樽矢、前川両会員は昨年6月から本年1月まで、(公財)日本体育協会公認山岳指導員研修を受講しこの度、以下のとおり修了しました。



4. 小林文庫開設

この度、谷路会員の紹介で、ご友人で元石川支部長の小林雄次郎氏のご子息忠雄氏から父親の山岳蔵書をいただきました。数量は通常の書棚3段程度で、内訳別では機関誌「山岳」が中抜けはあるも33年から97年まで分と「日本風景論」等山岳名著の復刻版、支部創立20周年記念誌「峰」、ティリッチミール1971、茗溪堂刊の山日記、マナスル、ネパール、エベレスト、深田久弥等の本の他ヒマラヤ登山報告書や遺稿集等です。個人保有では勿体無いので、今後「小林文庫」として一括保管のうえ希望者には貸し出しますので、前川までお申し出下さい。

5. 深田久弥山の文化館からのお知らせ

「深田久弥山の文化館」から「山の日制定記念事業」の一環として、以下の案内がありました。

■ 4月24日(日)

1. 久弥祭(午前)

- ・ 時間 午前10時～12時
- ・ 場所 江沼神社境内
- ・ 内容 来賓挨拶 献花 献酒 献句 朗読 献歌 記念コンサート

2. 記念講演会(午後)

- ・時間 午後1時～2時30分
- ・場所 大聖寺地区会館
- ・講師 庄司明夫氏(秋田県本荘山の会会長 鳥海山の会会長)
- ・演題 「鳥海山物語」

*詳細は「山の文化館」(Tel0761-72-3313)へお問い合わせください。

6. 会員・会友の退会

下記2名の方が退会されました。

- ・会員 西田 茂 さん (退会日 平成28年3月31日)
- ・会友 池本 誠治 さん (退会日 平成28年3月20日)

<編集後記>

平成22年4月号から本号まで編集に携わってききましたが、本号を以て後任にバトンタッチします。この間多くの皆様にご支援を賜り、あらためて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。引き続き後任の方へも、私同様ご支援をよろしくお願いします。(A.M)

日本山岳会石川支部報
発行日 2016年(H28)年3月25日
発行者 公益社団法人日本山岳会 石川支部長 中川博人
編集者 事務局長 前川 陽
電話 076-232-3555
E-mail isk@jac.or.jp
HP http://jac-isk.com

深田久弥ゆかりの山

山の日制定記念事業

みんなで作ろう

「富士写ヶ岳」 の方位盤

加賀富士とも云われる富士写ヶ岳は「日本百名山」の著者、深田久弥が11歳のとき初めての登山で自信をつけた山です。

近年は全国から毎年1万人あまりが訪れますが、頂上の方位盤は設置されてから半世紀が過ぎ劣化損傷しています。

本年から、8月11日は国民の祝日「山の日」です。

山に親しみ、山の恩恵に感謝する日を記念して山岳関連団体が呼びかけあい名著「日本百名山」の原点の山にふさわしい、品格のある方位盤を設置し山頂の整備を進めます。

つきましては、広く募金活動を行いますので、みなさまのご支援をよろしくお願いいたします。

あなたの募金を
よろしくお願いいたします



イメージ

目標額 300万円

募金期間 平成28年3月20日～7月15日

募金方法 個人様は2,000円から、団体様は10,000円からお願いします。

下記口座へお振込みください。

- ・ 取 扱 い 郵便局の窓口
- ・ 口 座 名 山の日記念事業実行委員会
- ・ 記号番号 00780-3-41891

* 振込手数料はご負担をお願いします。

* ご寄付の記録は方位盤台座に内蔵保管させていただきます。

設置事業の進捗状況をご覧ください

URL: http://jac-isk.com/event/h28_koutei_houiban.html



山の日記念事業実行委員会

- 石川県山岳協会 ● 石川県勤労者山岳連盟
 - 公益社団法人日本山岳会石川支部
 - 山中山岳会 ● 加賀山岳会 ● 加賀ハイキングクラブ
 - NPO深田久弥と山の文化を愛する会
- (協賛)加賀市 (後援)石川県 北國新聞社

お問い合わせ / 山の日記念事業実行委員会事務局

深田久弥山の文化館内

加賀市大聖寺番町18-2

TEL:0761-72-3313

E-mail: yamabun@mail2.kagacable.ne.jp



「山の日」制定記念事業 富士写ヶ岳方位盤設置計画

- 1.事業の概要 本年からの「山の日」制定を記念して、「日本百名山」を記した郷土が誇る作家で登山家の深田久弥が登山を始めるきっかけとなった「富士写ヶ岳」の頂上方位盤の経年損傷が激しいため、これらを再建し、山頂整備と久弥の功績を顕彰する。
 なお、本事業を契機に、県内の山岳関連団体が結束して、「山の日」の意義に即した事業を、今後継続的に展開していく。
- (1)方位盤は円形で直径600mm、厚さ6mm(R加工エッチング処理)の銅板で新規に作成。周囲の山や自然(湖等)並びに市名、距離等を表示。
 - (2)台座は御影石の角柱形で直径70cm高さ80cm。重量は800~1,000kg。ヘリコプターで山頂まで運搬。
 - (3)原材料の運搬や台座の基礎づくり、周辺の整備作業は山岳会会員やボランティア協力者を幅広く募集し、多くの参加者での完成を目指す。

2.事業計画

月	日	実施内容	月	日	実施内容
2	21	実行委員会設立会議	6	15	台座製作完了
	25	実行委員会設立		19	基礎地均し工事
3	20	寄附募集開始(～7/15)	7	20	台座ヘリ輸送
4	15	方位盤発注 ボランティア募集(～6/10)		24	台座据え付け完了
	20	台座発注	30	方位盤荷揚げ設置	
5	29	合同山頂調査 山頂整備	8	7	除幕式
				11	山の日
6	1	方位盤作成修了台座合せ	9	1	会計計算 報告書作成
	12	原材料資材荷揚げ		10	実行委員会解散

3.収支等関連

- (1)収入 募金・寄付金に基づく
 - ①目標額 300万円(個人2千円から 団体1万円からを基本に募金等を依頼する。)
 - ②募金期間 3/20～7/15
 - ③募金方法 郵便口座を開設し指定口座への振込依頼による。(振込手数料は募金者負担)
 - ④募金いただいた方々のご厚志の記録は方位盤に内在するカプセルに永久保存する。
- (2)支出
 - ①概算支出 300万円
 - ②支出内訳 方位盤作成費 50万円 設置及び付帯設備費等100万円
 運搬費(ヘリコプター) 100万円
 印刷 送料 その他諸経費 50万円

4.実行委員会

役職	所属団体/役職	氏名
相談役	石川県山岳協会名誉会長	村田 信親
	稲坂医院 院長	稲坂 暢
会長	加賀市長	宮元 陸
副会長	石川県山岳協会 会長	高田 和彦
	石川県勤労者山岳連盟 会長	浅瀬 和人
	(公社)日本山岳会石川支部 支部長	中川 博人
幹事(代表)	(公社)日本山岳会石川支部 事務局長	前川 陽
幹事	石川県山岳協会 副理事長	能村 輝夫
	石川県勤労者山岳連盟 理事長	荒川 直司
	山中山岳会 会長	中池 恭平
	加賀山岳会 会長	太田 他見男
	加賀ハイキングクラブ 会長	徳田 弘
監事	深田久弥と山の文化を愛する会 副理事長	紋谷 友幸
	深田久弥山の文化館 副館長	荒井 喜市
事務局(代表)	(公社)日本山岳会石川支部 会計	岡本 明男
	深田久弥と山の文化を愛する会 理事	大庭 保夫
事務局	深田久弥山の文化館 ボランティアガイド	真栄 隆昭
	深田久弥山の文化館 事務長	堂野 外巳明

(注)所属団体の役職は実行委員会設立時による。